

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075400293
法人名	(有)エバークリーン
事業所名	グループホーム くるみ
所在地	鞍手郡鞍手町大字中山 3599番地 電話 0949-43-1230

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年6月17日	評価確定日	平成21年7月7日

## 【情報提供項目より】(平成 21年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1日				
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	17 人	常勤	17人, 非常勤	人, 常勤換算	7.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1 階建ての 1	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	一日1,200 円			

### (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

登録人数	18 名	男性	3名	女性	15 名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	5	要介護4	4		
要介護5	3	要支援2	1		
年齢	平均 83.9 歳	最低 65 歳	最高	96 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木原医院 鞍手町立病院 健愛記念病院 りんご歯科
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームくるみは豊かな田園風景が広がる中に建つ2ユニットの平屋造りのホームである。「何よりも心地よい生活」の理念の下、入居者と家族が満足できる生活を送れるよう心のこもった介護を行うために、職員は常々から、入居者を親のように家族のように接しており、成人式後の晴れ着姿を披露しにホームに立ち寄るなど温かな関係づくりが行われている。隣接する医療法人の院長による毎朝の訪問は入居者、家族の大きな安心につながっていることはもとより、チームで作成している入居者の心身の変化に合わせた細やかな介護計画が功を奏し、健康状態の安定や穏やかな情動を導いている。季節や体調に合わせた外出も積極的に取り入れ、恒例となった夏祭りで近隣住民とも顔見知りの関係を構築している。今年は家族茶話会を開催したことで、家族同士がホームで立ち話をする光景もよく見受けられるようになった。入居者も重度化しており、今後医療機関が隣接する強みを生かした地域密着型サービスを期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画の優先順位を決め、人権研修の参加や家族茶話会の開催、介護支援専門員の支援記録の整備に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員で自己評価を記入し、全体で検討している。新人職員が多く、具体的に記入できないところもあったが、話し合うことで日々のケアの振り返りが出来ている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要領は整備され、介護保険担当職員、地域住民、民生委員、入居者家族、入居者等のメンバーで開催されており、昨年の外部評価の報告も行われている。運営推進会議の実施要領、議事録は整備されているが、議題が見つからないため、3ヵ月ごとの開催となっている。外部評価の結果を町担当課に報告したり、地域包括支援センターの声掛けで、近隣のグループホームと徘徊ネットワーク作りを始めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族が利用料金の際に、各受け持ち職員が入居者の1ヶ月の状況を記載した「実績票」を手渡し、日々の出来事を話したりホームに対する要望を聴き取る様になっている。家族会の設置はないが、茶話会を開催したことで、家族の交流ができる様になり、認知症の家族が抱える不安が解消している。運営推進会議での家族の意見を運営に反映している。苦情相談箱を設置している
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近隣の小中学校や乳児院とは、職場体験や行事の参加の呼びかけなど相互交流が行われている。恒例となった夏祭りは、地域住民や他のグループホームの職員や入居者などの参加もあり大盛況である。今年は5年に一度の山笠がホームに巡航し、少しずつ地域に受け入れつつある。また、庭の畑の手入れをしていると、地域の方が育て方を教えてくれたり、気軽に挨拶を交わしているため、入居者が一人でも出かけようとしても近隣住民が職員に声をかけてくれる。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法令を理解し、地域密着型サービスとして新たに「何よりも心地よい生活」を理念とし、運営理念を玄関ホールに掲示している。契約書、重要事項説明書に、地域密着型サービスの方針である「地域との交流の下」の記載がない。	○	契約書、重要事項説明書に地域密着型サービスとしての方針を明記することで、新たな理念の具現化を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、朝礼時に運営理念を唱和することや、日常のケアの折に理念を実践している。入居者の心地よい生活の実現に向けて介護計画が立案され、実施されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の特性で、自治会に加入できてない。障害があっても社会参加できる場を提供したいと、障害者をボランティアとして受け入れている。「子供110番の家」として地域の子供の安全のために協力したり、小中学校の職場体験や、運動会に招待されたり、乳児院の子供を招待するなど地域児童との交流がある。恒例となった夏祭りで住民と交流もすすみ、入居者が一人ででかけようとしても近隣住民が職員に声をかけてくれるようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員で自己評価を記入し、全体で検討している。新人職員が多く、積極的に記入が出来ないところもあったが、話し合うことで日々のケアの振り返りが出来たと感じている。前回の改善計画である人権研修の参加や家族茶話会の開催など実施に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に、地域の民生委員、地域代表、入居者、入居者の家族、介護保険課職員の参加があり、昨年の外部評価の報告も行われている。運営推進会議実施要綱、議事録は整備されているが、議題が見当たらないとの事で、3ヶ月ごとの開催となっている。	○	運営推進会議の議題に、行事計画の相談や行事報告、介護保険係からの情報などをあげて定期的な開催をお願いしたい。また、運営推進会議参加者の守秘義務規程を作成していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価結果を町担当課に報告し、町民が閲覧できる様に窓口に掲示をお願いしている。町との共催で年に一度の介護教室を開催しており、今年は介護予防のための認知症講演会を開催している。運営推進会議以外では町担当職員の訪問がないため、情報交換が出来にくい。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について、入居折に家族にパンフレットを渡し説明を行っているが、活用には至っていない。成年後見や地域権利擁護事業の研修会にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が利用料入金の際に、各受け持ちが入居者の1ヶ月の状況を記載した「実績票」を手渡し、日々の出来事を話したりホームに対する要望を聴き取る様にしている。定期的な健康診断も行われており、家族に随時報告している。預かり金は行っておらず、入居者の買物などの代金は一旦事業所が立替、前月の利用料の支払いの際に一緒に入金をお願いしている。順序を変えました・・		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに介護保険サービスの相談窓口が記載された公的機関のポスターが貼られている。運営規程、重要事項説明書に苦情や相談への対応について明記し、意見箱を設置している。家族会はないが、前回外部評価で提案した茶話会を開催して以後、面会に来訪した家族同士がよく話しをする様になった。恒例となった夏祭りなどで家族同士が交流し、参加者も増えている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動は、入居者を不安にさせるため行わないようにしている。スタッフの異動や離職によるダメージが最小限に抑えられるように担当者を2名以上にしており、なじみの関係が途切れないようにしている。夜勤者は新人職員とベテラン職員をユニット同士で組み合わせるなど配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	ハローワークの活用、職員の紹介などで職員を採用している。障害者就労支援の職員が今年者寿退職し、新規の障害者就労を支援している。職員の年齢も幅広く、職員同士の長所を活かしながら働いている。就業規則もあり、雇入れ通知書が交付されている。年一回の職員健診も実施しており、有給休暇も定期的に取りれるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権教育、啓発のパンフレットを整備し、人権研修に参加している。契約書に身体拘束防止について明記し、マニュアルを整備している。やむをえず身体拘束を行う場合は、経過記録や同意書も整備している。介護計画に細かく手順を記載して、職員が統一した対処が出来る様になっている。高齢者虐待防止に関するマニュアルがあり、研修会参加予定である。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画があり、職員は知識を深めたいと熱心に研修に参加している。勤務時間を調整し、交代で研修に参加できる仕組みがとられている。職員は悩みや困りごとには管理者、ケアマネージャーに相談している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	夏祭りに、他のグループホームの職員と入居者を招待したり、同業者間で訪問、見学など、積極的に交流している。地域包括支援センターの声掛けで、近隣のグループホームと徘徊ネットワーク作りを始めている。福岡県高齢者グループホーム協議会に加入していない為、今年度の介護保険制度の改正の情報がなかなか分からずに困った経緯がある。	○	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入して、情報収集や交換の機会を増やしてはいいでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今年度は新規入居者がなく、初期対応をすることがなかったが、なるべく家族と話し合いながらケアを開始したり、体験入居や見学、日中のみ過ごしてもらうなど慣れるまで工夫している。近隣住民や隣接するデイケア利用していた方が多く入居しているため、なじみながらの入居が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を人生の先輩として敬意を持って接するようにしている。管理者、職員は、「それぞれが家族の様に関わること」を心がけており、職員が成人式の後、晴れ着姿を入居者にお披露目に来たり、家族的な関係がある。		
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や職歴などをアセスメントしている。感情や思いが表出しにくくなくても、日々の生活の中で、把握したちよつとした情報でも職員同士で共有できる様に、記録を取りミーティングなどで活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の計画が共有できる様に主たる担当者を決めて2名で担当している。月に一回のケア会議で計画を意見を出し合い、見直すようにしている。計画書には、本人、家族の意向の記載があり説明同意の署名捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の定期的な介護計画の見直しは、情動の変化や体調の変化の合わせて、家族と情報共有しながら行われており、見直した計画について家族に説明し、同意を得ている。支援経過記録、モニタリング記録、担当者会議録は整備されている。介護支援専門員の経過記録と介護スタッフの経過記録が時系列で整理しており、情報の共有が行いやすいように改善している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するディケアと合同で花見に行ったり出かけたりしている。行きつけの美容院の送迎を支援したり、家族がお化粧ボランティアに来訪している。個別に自宅訪問などを支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する医療法人の院長が主治医であるため、定期的な健康診断が行われており、家族に報告している。主治医として協力医療機関ばかりでなく専門外の医療機関への受診も支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設の医療法人の院長が、毎朝入居者の訪問を実施しているため、緊急時や急変時は早急に専門医療機関へ搬送でき、入居者や家族から篤い信頼を得ている。看護職員が手厚く配置されているため、今後は本人や家族がホームで終末期を迎えたいとの意向があれば、訪問診療、訪問看護を活用し、支援したいと考えている。	○	入居者も重度化してきており、看取りや終末期に関する指針を整備され、訪問看護と具体的な連携に取り組まれてははいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関するマニュアルも作成し、掲示もされている。職員は、入居者を親しみをこめてなじみの呼び名で呼ぶようにしているが、接遇委員会が中心となって尊厳を保つ対応について話し合っており、不適切な対応のときはお互いに注意しあうようにしている。排泄介助時は穏やかに介助を行い、プライバシーに留意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	担当制をもうけており、日常生活を把握するためにミーティングを行っている。個別に散歩に出かけたり、近隣の外出に付き合ったりしている。入居者の希望で食事の時間をずらしたり、起床時間を遅らせたり、入居者のペースで生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2ユニットそれぞれにメニューを変え、ユニット間で「おすそ分け」をして食べる楽しみを増やす工夫をしている。畑で取れた野菜を料理に使用し、食卓の話題にしている。下膳をしたり、後片付けなどを入居者と共に行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回入浴できる様に配慮しているが、失禁などで汚れた場合、その都度、夜間でもシャワー浴を行っている。入浴拒否のある時は気長に根気強く声をかけし、入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おしぼりたみや花壇の水遣り、金魚のえさやりなどを、入居者の力量に合わせてお願いしている。2ヶ月に1度の入居者の家族によるお化粧品ボランティアを入居者は楽しみにしており、お化粧の後は話が弾んでいる。職員と一緒にそだてている庭の野菜や花の話では、近隣の住民から助言等で話しが弾むこともある。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の温泉に出かけたり、初詣や季節ごとの花見や近隣への散歩、隣接するデイケアの誕生会の参加など積極的に行われている。パチンコにでかけたり、少人数であるが、毎日の食材の買物を入居者と一緒に出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことがあたり前として、入居者職員が過ごしている。外出傾向のある入居者には職員が気配りしながら日々を過ごしているが、今回地域包括支援センターの声掛けで、近隣のグループホームと徘徊ネットワーク作りを始めている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時マニュアルを作成している。年1回消防訓練を実施している。災害を想定し3日分程度、水や米、缶詰、おむつなどの備蓄を行っている。夜間を想定した訓練を行うよう検討している。運営推進会議で、近隣住民が被災した場合、ホームを緊急避難先として提供することを話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	確実な水分摂取を支援するために、ペットボトルで計量している。食事量が少ない入居者にはプリンなど好みのもので摂取を支援したり、声かけを行っている。水分、食事摂取量の記録が整備され、入居者の好みに合った食事やおやつがバランスよく準備されているので、月に一度の体重測定では過度な増減はない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の庭から田んぼや畑が見渡せるように椅子が置かれ、アプローチには、入居者が毎年楽しみに朝顔を植えて育てている。各ユニットのリビングの一角には和室がしつらえてあり、洗濯物を畳んだり季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気が漂っている。リビングのあちこちにソファが置いてあり、入居者は思い思いの場所でくつろいで過ごしている。入居者が心地よいと感じる室温に設定している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や仏壇などの持込があり、家族写真を貼ったりして落ち着けるように工夫している。天候の良い日には居室の窓を開け、周囲田園の清々しい空気を入れたり布団を干したりと心地よく過ごせるよう支援している。		